

読

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響

神様、教えて。
なぜ時は、こんなにも早く過ぎ去ってしまうの？

音楽の真の美を信ずる者たちが紡ぐ、
一夜限りの儂くも美しい物語。

指揮: シルヴァン・カンブルラン
conductor: SYLVAIN CAMBRELING

チェロ: ジャン=ギアン・ケラス
cello: JEAN-GUIHEN QUEYRAS
コンサートマスター: 長原幸太
concertmaster: KOTA NAGAHARA

ベルリオーズ: 序曲「宗教裁判官」 作品3
BERLIOZ: "Les Francs-Juges" Overture, op. 3

デュティユー: チェロ協奏曲「遙かなる遠い世界」
DUTILLEUX: Cello Concerto "Tout un monde lointain"

ブルックナー: 交響曲 第3番 短調「ワーグナー」(第2稿)
BRUCKNER: Symphony No. 3 in D minor "WAGNER" (second version)

2016 6/24(金) 19:00 サントリーホール 
SUBSCRIPTION CONCERT No. 559 / Friday, 24 June 2016, 19:00 / Suntory Hall
読響チケットセンター 0570-00-4390(10時-18時・年中無休) <http://yomikyo.or.jp/>

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)

協力: アフラック (アメリカンファミリー生命保険会社)



我信ず

credo in musicam

澤谷夏樹 (音楽評論家)

6月24日、サントリーホールは秘密法廷となる。ベルリオズの「宗教裁判官」は、未完の同名オペラのための序曲。舞台は中世ドイツ、ある女性が婚約者を秘密法廷から助け出す救出劇だ。冒頭、不安げな短調の響きの中、付点リズムが描き出すのは、足を引きずるように歩み出る被告人の姿。これから男は、法廷で自らの信条を問われる。

こうした冒頭曲に呼応するのが、後半に置かれたブルックナーの交響曲第3番「ワグナー」だ。1873年の初秋、ブルックナーはドイツ・バイロイトを訪れ、憧れの「巨匠」ワグナーに交響曲第3番の献呈を申し出る。面会后ブルックナーは、ワグナーの「トリスタンとイゾルデ」や「ワルキューレ」から引用したフレーズを、同曲の第1楽章に忍ばせた。ブルックナーはこうして、ワグナーの音楽への「信仰」を告白した。

重要なのは、カンブランと読響がこの交響曲の第2稿を演奏する点だ。第1稿にあったワグナー作品からの引用は、第2稿では割愛されている。これはブルックナーの「ワグナーへの信仰」が失われたことを意味するのではなく、それが「音楽一般への信仰」へと昇華したことを意味している。

カンブランはこの秘密法廷で、ブルックナーにことよせて、音楽への信仰を告白するのだろう。その観点からプログラムを眺めると、序曲と交響曲とに挟まれたデュティユーのチェロ協奏曲「遙かなる遠い世界」は、ミサの「クレド」に見えてくる。「クレド」は「我信ず」の意。4世紀に定められ今日まで伝えられる、キリスト教の信仰告白文だ。

デュティユーは「遙かなる遠い世界」を、ボードレールの韻文詩集『悪の華』に触発されて書いた。タイトルは同書第23篇の「髪」から取られている。また、各楽章には詩節が添えられる。それがまさに「音楽への信仰告白文」にほかならない。とりわけ第4楽章「鏡」の詩節に、告白者と音楽との関係がくっきりと映し出されている。「ふたりの心はふたつの焰 合わせ鏡の精神に ふたつの光が重なり合う」(「恋人たちの死」、『悪の華』第121篇)。

聴き手たる私たちも、音楽に対して「クレド」の拍手を送りたい。開廷は間もなくである。



SYLVAIN CAMBRELING, conductor
シルヴァン・カンブラン (指揮)

色彩豊かな音楽作りで、読響を世界のトップレベルへと導く名匠。1948年フランス・アミアン生まれ。2010年から読響常任指揮者を務め、古典から現代まで幅広いレパートリーを演奏し、既に高い評価を得ている。現在、世界有数のオペラハウスであるシュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督を務めるほか、クラングフォーラム・ウィーンの前首席客演指揮者も兼任している。ベルギー王立モネ歌劇場の音楽監督、フランクフルト歌劇場の音楽総監督、バーテンバーテン&フライブルクSWR響の首席指揮者を歴任。ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ミュンヘン・フィルなどの世界の一流オーケストラに客演するほか、ザルツブルク音楽祭、メトロポリタン・オペラ、パリ・オペラ座などでも活躍している。録音にも積極的で、SWR響などと多数のCDをリリース。読響との「春の祭典」/中国の不思議な役人」は「レコード芸術」誌の特選盤に選ばれるなど、絶賛を博した。2015年3月には、読響を12年ぶりの欧州公演へ導き、各地で成功させた。

JEAN-GUIHEN QUEYRAS, cello
ジャン＝ギアン・ケラス (チェロ)

現代作品も数多く手掛け、幅広いレパートリーで意欲的な活動を続ける世界的チェリスト。1967年モンテリオール生まれ。ウィーン・ムジークフェライン、ウィグモアホール、カーネギーホールなど、欧米の権威あるホールのリサイタルを開催している。また、パリ管、スイス・ロマン管、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、BBC響などの一流オーケストラと共演。2002年からアルカント・カルテットのメンバーとして活躍するなど、室内楽奏者としても活動を展開している。協奏曲や室内楽、ソロで数多くのCDをリリースし、高い評価を得ている。楽器は1696年ジョフレド・カッパ製(メセナ・ミュージカル・ソシエテ・ジェネラルより貸与)。現在は、フライブルク音楽大学教授を務めている。

読売日本交響楽団 第559回 定期演奏会

2016年 6月24日(金) 19時開演

サントリーホール

S ¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C **SOLD OUT**

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

サントリーホール30周年

記念参加公演

Hibiki to the World

SUNTORY HALL

読響

学生券: 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択してチケットをご購入いただけます(一部、携帯電話、スマートフォンなどを除く)。*郵送でチケットを受け取る場合、送料は無料です。

プレイガイド: チケットびあ 0570-02-9999、サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017